

「大山並木松」の巻

大山寺博労座下、県道分岐点の「別れ地蔵」の前に、「右みくりやいなば」「左よなごいずも」と刻まれた古い

道標があります。「右みくりやいなば」とあるのが飯戸集落方面へ下る道、「左よなごいずも」とあるのが赤松集落西側を通って米子市尾高方面へ下る道です。車道として整備された際に昔とはルートが変わった部分も多くありますが、昔の参詣道と重なった部分では巨大な老黒松が並ぶ姿も見られます。現在23本が残っており、「大山並木松」として町指定文化財に指定されています。

大山並木松は、大山寺が徳川幕府から寺領三千石を安堵され、近世大山寺の礎を成した中興開祖・豪圓僧正が江戸時代初め慶長年間に、冬季に雪深く積もる山道を寺僧や参詣者が迷わないようにとの慈愛の心から、目印として松を

植えるよう指示し、当時の山奉行が植えたものと伝えられています。

大山寺は地蔵菩薩を本地仏とする大智明権現を信仰の核とする大寺院として参詣者が訪れま

した。それでも元禄時代頃に民間で札所巡礼などが盛んになる以前は、人々が気軽に参詣に出かけられる状況ではなかったようです。

江戸時代中期の旅行記にも「大山寺を出て楨原の野をすれ違う人もなく、心細い思いをしながら降りた」と記されています。大山さんの祭日

や牛馬市には絶え間ない行列で溢れましたが、平日の参詣者の通行はそこまで多くなかったようです。参詣道の周囲は雑草や雑木も繁茂し、暗くなれば分かりにくいこともあったと思われれます。並木松



▲尾高道の大山並木松

は参詣者たちの目印として、また雨宿りや休息の場となったことでしょう。

昭和52年4月の指定以後、松くい虫被害が周辺に及び始めてからは、大山町や鳥取森林管理署が松くい虫防除などを行って、その保護に取り組んでいます。残念ながら、巨大な老松を維持することは難

しく、これまでに枯死して伐採されたものもあります。先人の信仰の歴史を物語る貴重な文化財として永く伝えていきたいものです。
(人権・社会教育課文化財室)

重要文化財門脇家住宅

屋根修理現場特別公開が行われました!!

大山町所子の重要文化財門脇家住宅では、今年度から主屋の屋根替えなどの大改修を行っています。

この機会を利用して、普段は見ることのできない重要文化財の茅葺屋根などの修理現場の特別公開が行われ、10月31日(土)・11月1日(日)の2日間に県内外から約130人の訪問がありました。

日中は、今回の修理で屋根工事を担当している京都府南丹市美山町の美山茅葺株式会社

社の中野誠さんから葺き替え作業の方法や茅について詳しく説明がありました。

美山町には、かやぶきの里として有名な重要伝統的建造物群保存地区である美山町北地区(山村集落)があります。

両日の夜には「茅葺職人さんたちと語る会」が開かれ、現在門脇家の修理に携わっておられる若い職人さんたちのお話を聞くなど、交流を深めました。

(人権・社会教育課文化財室)



▶間近で葺き替え現場の見学



▶茅の葺き替え作業